

令和6年度 福井県立道守高等学校 学校評価書(通信制)

注: ◎大いに成果が見られた ○それなりの成果が見られた ▼課題である

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
教育課程 学習支援	a 「学習の手引き」を活用して学習状況を自己管理させ、計画的に自学自習に取り組めるよう指導する。	◎教職員は100%が「学習の手引き」を活用して、計画的な学習についての指導できたと回答している。生徒・保護者についても約9割が「学習の手引き」を活用して、時間割や報告課題提出締切を確認しながら、計画的に学習を進めることができたと回答している。また、今年度前期の単位修得率が78.4%(R5 76.6%)という高い結果となった。「学習の手引き」の活用が単に計画的な学習や単位修得にとどまらず、先を見通して計画を立てたり締め切りを守ったりしようとする態度が習慣として定着して、学習以外の社会生活の中でも生きる力となるよう、今後もさまざまな場面で粘り強く指導していく必要があると考えられる。	・LHや授業などのさまざまな場面において「学習の手引き」の活用を生徒に呼びかけ、「通信道守」にも「学習の手引き」の活用例を掲載するなどして、生徒が計画的に学習し、学習の記録を習慣化させられるよう努める。また、学習の記録を学習成果の振り返りに活用して、行動の改善につなげていく。
	b 生徒の学習意欲を喚起し学習成果を上げるために以下の点に留意して指導する。・報告課題の内容の充実・水曜学習支援の啓蒙・丁寧な添削指導・学習到達度の明示・教員及び生徒のICT機器・教育番組の積極的活用	○教員が面接指導や添削指導を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する指導ができたことと回答し、添削指導・面接(指導)に対する満足度は生徒が92%(R5 92%)、保護者が90%(R4 96%)と目標値を上回った。ただし、今回のアンケートの中に「報告課題が理解できるプリントがほしい」という記載もあり、このような声を面接指導や報告課題の添削指導の際に拾い、授業改善につなげていくことが大切である。よりわかりやすい面接指導に向け、さらなる指導方法の改善が必要である。	・ICT機器の効果的な活用について教科会や担任会で協議し、面接指導の更なる充実を模索する。 ・報告課題の内容が理解しやすい教材の作成や、理解を深められる添削に努める。 ・水曜学習支援の利用を啓蒙し、個別指導を通して自学自習をサポートする。
生徒支援	a 特別活動を通して、思いやりや助け合いの心を持って行動できる生徒の育成に努める。また、いじめの早期発見や早期解決に向けた取り組みに努める。	◎安心して学校生活を送ることができたかという問いに対して、生徒は94%(R5年度92%)と高い評価を得ることができている。しかし、保護者に対するアンケートでは86%(R5年度96%)と目標をクリアしてはいるが、昨年と比較して10ポイント低くなっている。いじめの早期発見について、今年度より生活アンケートを実施しており、そこから疑わしい状況を感じることはない。この点については生徒は安心して学校生活を送れていると考える。	・教員やカウンセラーで情報交換を密にすることで学校生活、家庭生活における生徒の変化を見逃さないように努める。登校指導で生徒の心身の健康状態を把握する。 ・本年度から実施した生活アンケートをより多くの生徒が実施できるよう工夫するとともに、さらに多くの情報を発信し生徒や保護者が安心して登校できる環境を整備する。 ・学校行事や部活動への参加を促して、他者とのよりよい関係を築くことで安心した学校生活を送れるように努める。 ・休みがちな生徒の実態、欠席理由を把握し安心して登校できるように努める。
	b 研修会等で具体的な問題を提起し、生徒自身に考えさせる場面を設けることで、社会の一員としての規範意識を身につけさせる。	◎社会の一員として、交通法規や喫煙・薬物問題を念頭に置いた「規則やマナーを守ることが出来たか」という問いに、生徒99%(R5年度 99%)、保護者94%(R5 97%)と肯定的な評価をしている。今後も交通規則や社会のマナーについての規範意識の遵守と、その必要性について指導していきたい。	・交通事故やインターネットによるトラブル、スマートフォンの使用方法等、生徒の実態に即したテーマでLHにおける研修会を実施し、規範意識を遵守する大切さを生徒が自覚できるように努める。 ・保護者に対しても敷地内での禁煙、安全運転をお願いする。 ・巡視や個別指導を継続して行い、問題行動の防止に努める。 ・必要に応じて下校時のスクールバスの乗車指導を行い交通マナーの向上に努める。
	c 生徒に特別活動への参加を促し、集団の中で他者と協力することの大切さを伝える。	◎今年度、「ロングホームや学校行事に参加することが出来たか」という問いに、生徒、保護者ともに成果指数70%以上の目標を上回った(生徒84%(R5年度83%)、保護者75%(R5年度 79%))。 ◎部活動については、昨年までのバドミントン部、陸上部、卓球部に加えて、今年度新たにソフトテニス部、軟式野球部が活動を始めた。全国定時制通信制体育大会には陸上部、卓球部、ソフトテニス部が出場した。また同好会として今年度よりイラスト、手芸、写真も活動を始めた。活動では顧問が共に活動し、生徒は楽しさや充実感を感じている。活動の情報を提供して、生徒の興味を重視しながらさらに活動を広める必要がある。	・学校行事や部活動を通して集団の中で他者と協力することの大切さ、楽しさを感じさせることに努める。 ・若樹祭については、日程を遅らせることにより、後期のスクーリングを通して生徒への参加を呼びかけ、ポスターなどによるPRの充実させたい。また、より生徒中心の活動になるよう生徒会とともに作りあげたい。 ・部活動が他の生徒にも広がるように勧誘する。
進路支援	a 生徒のコミュニケーション力を育てるとともに、自己理解を深め、進路意識の向上を図るために、以下の実践を行う。・進路ガイダンス・進路オリエンテーション・職業観育成講座・教員との面談・様々な関係機関との連携	◎進路ガイダンス・オリエンテーションの活用、個人面談の実施、卒業生による職業講話を通じて生徒の自己理解を促し、進路に関する情報を随時提示するなど、教員の取り組みは継続して行われている。生徒・保護者ともに成果指数目標を上回っており、学校での進路に関する様々な取り組みが、家庭において保護者とともに進路について考える機会となり、協力を得られているためだと思われる。全体的にやや数値が下がっているのは、生徒数増加に伴い、教員の生徒に関わる時間が減少していることが要因の一つといえる。外部との連携では「中小企業家同友会」との共催の企業説明会では「ふくい若者サポートステーション」の担当と5名が面談し、その後定期的に支援を受けている生徒がおり連携がより深まっている。	・進路ガイダンス、進路オリエンテーション、就職・進学ガイダンス等の企画、LHでの個人面談等を通して、入学時から自己理解を深めさせ、働く意義や卒業後の生き方を考えさせる。  ・「自分を変えられる」と自己肯定感をもって自らの枠を超えていくようなきっかけとなるよう、外部講師を招いた講演を活用し生徒の進路意識向上に繋げる。
	b 進路に関する情報を共有し生徒の実態に応じたきめ細かい指導に役立てる。	◎就職希望の生徒にはオリエンテーションで全体の流れを伝え、LHを利用してスーツの着こなし講座を企画して意識づけをおこない、サマー求人企業説明会への参加に向けて良い準備ができた。今年度は進学希望の生徒が例年より多く、生徒会活動や部活動、ボランティア活動に参加する機会を得て、私立4大や短大への進学希望を叶えている。	・進学希望者への情報提供や自己理解につながる働きかけについて、担任と連携しながら保護者・本人の自己理解が深まるような指導を継続的にすすめる。

生徒理解	理解・状況把握に努め、多様な生徒に対応した適切な関わりをできるよう、生徒情報交換会や事例検討会、教育相談研修会を実施し、SC・SSW・専門機関等との連携を強化する。	<p>◎生徒と触れ合う時間が限られている中、生徒が先生に親身にかかわってもらえていると答えた割合は88%と非常に高い評価となった。</p> <p>◎すべての教職員が教育相談の研修会や情報交換会を通して生徒の理解や状況把握を行い、適切な関わりに努めたと答えている。事例検討会では「サポートを必要とする生徒への対応」について話し合うなど、教員が1チームで生徒理解・生徒支援に努めることができている。</p>	<p>・生徒数が多くなってきて、大勢が苦手な繊細な生徒にとって非常に辛い状況になっているだけでなく、クラス担任がすべての生徒の状況を把握するのが難しくなっている。実際にアンケートでは、1割程度の生徒や保護者から評価されていない。今後も教員が1つのチームとして共通理解を図るとともに、SCやSSWと連携して、早期に適切な支援にできるようにする。</p>
	b 保護者面談や「保護者のつどい」の内容の充実を図り、保護者への支援が生徒支援につながるようにする。	<p>◎今年度も、教職員の生徒への対応について、保護者の満足度は大変高かった。また、年2回「保護者のつどい」を開催し、福井で長年不登校支援を実践し経験と実績をもつ講師を招いて、「親の会」スタイルの会を実施した。個別相談をもとに情報を共有することで学び合う場を作ってもらった。会の後でも保護者同士の話が尽きず繋がり場にもなり、参加者から好評価を得た。</p>	<p>・今後も保護者の面談を積極的に行い、生徒の支援につなげる。SCやSSWと協力しながら、不登校状態、ひきこもり生徒をかかえる保護者に対しても要望をもとに、家庭訪問を行うなど支援の機会を増やす工夫をする。</p> <p>・来年度も引き続き「保護者のつどい」を開催する。さらに多くの保護者同士がつながる機会となることや、卒業後の相談場所となることを期待している。</p>
健康安全	a 生徒が美化ボランティアや清掃活動に自主的に取り組むことができるように、家庭と連携しながら美化意識を高めていく。	<p>◎清掃や美化ボランティアに取り組んだ生徒の割合は、R3 87% →R4 94% →R5 91% →R6 89%と高い指数を維持しており、生徒が自覚をもってしっかり美化活動に取り組んでいる様子がうかがえる。一方、家での整理整頓や掃除をしている割合も、R3 54% →R4 52% →R5 65% →R6 57%と、前年比で7ポイント低下している点については残念である。</p> <p>◎美化ボランティアにも登校しているほとんどの生徒が参加しているという印象であり、自発的に美化活動に取り組む姿勢が確立しているといえる。 (前期7/21・150名、後期12/22・143名)</p>	<p>・最適な学習環境の整備、単位修得という観点からも、文房具や合格済みレポートの保管・管理など、通信制で学ぶ上で欠かせない態度の育成を念頭に置いて指導していきたい。</p> <p>・各清掃場所の監督の先生方による丁寧なご指導により、清掃への取り組みは堅調である。現在の良好な雰囲気は今後も維持し続けることが肝要である。</p>
	LH等を通して薬物、喫煙が体に及ぼす影響を理解させ健康への意識を高める。学級担任と連携し健康診断受診の必要性について啓蒙活動に努める。	<p>◎喫煙や薬物乱用防止への取り組みについては、R3 生徒97%・保護者94% →R4 生徒・保護者ともに97% →R5 生徒100%・保護者96% →R6 生徒96%・保護者97%と、高い達成率を実現している。社会全体のこれら心身に有害な物質に対する悪影響への理解が浸透していることの表れであると考えられる。</p> <p>○健康診断については、担任の先生方を通じて生徒に対して費用の自己負担のない指定医療機関「ふくい総合健康プラザ」での受診を促しているが、受診率はR3 57% →R4 52% →R5 46% →R6 39%と低迷している。クラスによって格差が見られ(21~71%)、何らかの改善策を考えていく必要があるだろう。</p>	<p>・LH等による講習を継続し、薬物や喫煙の体に及ぼす影響を今後も伝えていく。</p> <p>・校舎内外の巡視を継続し、喫煙防止やゴミの分別を根気強く呼びかけていく。</p> <p>・1年を通して感染症対策が求められる中、日々の健康観察と共に健康診断受診の重要性については、生徒だけでなく保護者の方々のご理解とご協力が欠かせないと痛感している。</p>
生涯学習	a 「通信道守」等の発行により、生徒・保護者に適切な情報が届くように工夫する。	<p>◎教員は、「通信道守」などを活用して生徒・保護者に対し積極的に情報発信に努めている。各家庭に「通信道守」を送付し、生徒向けには教室に掲示した。生徒・保護者ともに「通信道守」を配布・送付していたことで学校行事での生徒の様子や、保護者の方にも知っていただきたい大切な情報を伝えることができた。学校と家庭を繋ぐ情報誌として定着してきており、生徒・保護者ともに成果指数目標を上回ることができた。年6回「通信道守」の発行で、より詳しくタイムリーな学校生活の様子を家庭に伝えることができた。目標は上回ったが、一年前の記事のコピーに陥らないよう努めていく必要がある。</p>	<p>・引き続き、各家庭に「通信道守」を送付、生徒向けには教室に掲示する。さらに、入学式や保護者会、また本校ホームページなどで「通信道守」の存在や内容を紹介し、学校生活に必要な情報を得られるということを発信していく。</p> <p>・「通信道守」を年6回発行し、より学校生活についての情報や様子がわかるような話題や内容、紙面の工夫を考えていく。</p>
	b 授業・LH・広報などの機会を利用し、様々なメディアから広く情報を得たり、正確な知識を身につけることの有効性を伝える。	<p>◎具体的取り組みが、生徒を取り巻く環境に合わせ「様々なメディアから広く情報を得る」としたことで、成果指数目標を上回った。進路指導と重複するが、就職支援ポータルサイト「Handy進路指導室」の導入により、就職希望生徒への求人情報伝達が携帯端末でできるようになった。情報を得るには、本だけでなくいろいろな媒体から情報を得て比較することが大切であると考えさせるのが目標であり、良好な結果である。ただし、情報の信憑性や正確性についてはメディアによってバラつきがあるとも考えられるため、フェイクニュースなどに惑わされないメディアリテラシーを身につける取り組みも重要である。</p>	<p>・インターネットの中には正しくない情報も含まれていることを自覚し、利便性だけに捕らわれずに、新聞・書籍などからも情報を得るように引き続きはたらきかける。</p> <p>・Chat GPTなどのAIに触れる機会も出てくると思われるが、安易に使用して結果として他人の権利を侵したりすることがないように伝えていく。</p>